

令和8年度 学校経営計画

江田島市立能美中学校

I ミッション（地域社会における自校の使命・存在意義）

「保護者・地域から信頼され、生徒が誇りに思える学校となる。」

II ビジョン（目指す学校像・自校の将来像）

学校教育目標：自分で考え、全力を出し尽くす生徒の育成
「心身共に健康な体と思いやりの心を育み学力を伸ばす学校」
「教職員の資質の向上と組織の機能化を図る学校」
「地域に貢献できる地域と共にある学校」

III 現状分析

S（Strength：強み）

【学校】：整った環境の中で、特色ある教育活動（応援合戦、合唱）などが行われている。様々な教育活動に対して、教職員が協働して取り組むことができる。

【生徒】：素直な生徒が多く、積極的に学習活動に参加している。特に応援合戦や合唱については自校の伝統と誇りを感じ、しっかりと受け継いできている。

【保護者】：学校教育に関心が高く、行事への参観やPTA活動への参加なども協力的である。

W（Weakness：弱み）

【学校】：生徒数・学級数の減少により、部活動のチーム編成への支障、教職員数減による一人当たりの業務負担が大きくなっている。教職員の年齢構成や経験年数に偏りがある。

【生徒】：生活習慣・家庭学習習慣が確立できていない生徒もおり、学力の定着において較差が見られる。また、不登校生徒数（傾向も含む）が増加傾向である。

【保護者】：保護者の就労等の関係で、親子で十分接する時間や機会がとれない家庭も多い。

O（Opportunity：支援的要因）

【地域】：学校や生徒へ関心や期待が高く、総合的な学習の時間の活動にも協力的である。統合により西能美島全体が校区となり地域に様々な教育資源がある。

【市・県・国】：学校運営に対する人的・予算的支援がある。小中連携や中中連携、地元高校等との連携などを密に行うことができる。

T（Threat：阻害的要因）

【地域】：生活が困窮する家庭が増加している。通学範囲が広がったが、路線バス便が少ない。

【市・県・国】教職員の通勤が広い範囲である。また、教職員の大量退職等により年齢構成の不均衡が年々著しくなっている。教職員の働き方改革が大きな課題となっている。

【主体的な学びの促進】生徒アンケート（R7後期）の肯定的回答の割合

主体的な姿勢 70.2% 見通しをもった計画 75.0% 課題意識 75.8%

【令和7年度 標準学力調査（江田島市小中学校学力調査）】 ()は目標値との差

	国語	社会	数学	理科	英語
1学年	65.4(+5.0)	49.3(-5.9)	56.4(-0.4)	55.4(-1.2)	55.3(+2.9)
2学年	76.0(+10.2)	61.5(+9.7)	53.4(+2.6)	50.6(-2.1)	55.1(+3.6)

【「時を守り、場を清め、礼を正す」取組の推進】生徒アンケート（R7後期）の肯定的回答の割合

時間を守る 83.1% 一所懸命掃除に励む 89.5% 大きな声で返事や挨拶をする 71.0%

【さとうみ学習の取組の充実】生徒アンケート（R7後期）の肯定的回答の割合

「自分の住んでいる地域が好き」84.7%

【体力的活動の充実と体力の向上】

- ・生徒アンケート「運動やスポーツが好き」に対する肯定的回答割合 79.0%
- ・R7新体力テスト結果(第2学年)において男子は「上体起こし」、「長座体前屈」、女子は握力以外の種目が県平均かつ全国平均より低い結果であった。

【学校に対する満足度】生徒及び保護者、教職員アンケートの肯定的回答（R7後期）の割合

- ・「学校に行くのが楽しい」生徒 83.9% 「学校に楽しく行っている」保護者 93.5%
- ・「仕事にやりがいがある」教職員 100%

IV 目標及び取組

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策
基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力を育成する。	①主体的な学びを促進する。	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改善を計画的に行う。
	②基礎・基本の定着を図る。	・各教科において、基礎・基本定着のための取組を工夫する。 ・単元ごとに到達度を把握し、その改善を図る。 ・家庭学習（「毎日ノート」、ICT活用など）への指導助言を行うことで、自己教育力を育む。
豊かな心と社会性の育成を図る。	③「時を守り、場を清め、礼を正す」取組を推進する。	・生徒会自治活動を中心として、「a 時間を守る」「b 一所懸命掃除に励む」「c 大きな声で返事や挨拶をする」の充実を図る。
	④道徳教育の充実	・考え、議論する道徳と特別活動（行事、ボランティア活動等）が有機的に関連するカリキュラムの構築
	⑤さとうみ学習の取組を充実する。	・地域の教育資源を活用した体験や探究学習を充実する。
健やかな体の育成と体力の向上を図る。	⑥体育的活動を充実させ、体力を向上させる。	・保健体育科授業の改善と共に業間運動や体育的行事の充実を図る。 ・部活動指導員を拡充し充実を図る。
組織の機能化と業務改善により、やりがいのあがる職場環境をつくる。	⑦学校に対する満足感を高める。	・生徒指導の4つの視点を大切にされた教育活動を展開する。
	⑧時間外勤務の縮減に向けた業務改善を行う。	・定時退校日の完全実施を図る。 ・行事や会議のスリム化、また、時程の工夫等により、生徒と向き合う時間の確保を行う。